

第 11 次新潟県職業能力開発計画骨子素案に対するご意見等

委員名	骨子素案	計画全般
大原 委員	<p>国の計画に書かれている、「主体的なキャリア形成」という表現は、どこかに必要ないでしょうか。</p>	<p>テクノスクールの利用促進のために、テクノスクールにおいても高度な IT 人材の育成コースを拡大、充実させることは出来ないのでしょうか。</p>
青柳 委員	<p>10 次の「成長」から 11 次は「変化への対応」という文字が目がとまりました。</p> <p>現在のコロナ禍において、経済活動、そして雇用にも大きな困難が予想され、その中で県の職業能力開発課の皆さまにおいては、非常に御苦労されつつ重要な役割を担っていただいていると感じました。</p>	
桑原 委員	<p>若年求職者等の安定就労について。</p> <p>若年層の県外流出を防ぐために、県、地元企業、学校が連携したキャリア形成教育、就労支援などに力を入れることで、長期的な労働力引き上げに繋がるのではないかと。</p>	-
宮崎 委員	<p>今の社会で求められていることや、様々な視点が網羅された良い計画案だと思います。</p> <p>第 10 次計画の「全員参加社会」から「誰もが活躍する働きやすい社会」に言葉が変わっている点が実感できるものであると良いと思います。</p>	-
佐藤 委員	<p>人口減少、労働力人口の減少下の中で、地方が選ばれるためには、女性の活躍は重要であると思う。</p> <p>実際に教育・研究機関においても、女性の職員や研究者が活躍の場があれば、家族で新潟に暮らすことができるであろうと、長年議論をしているものの、実現は簡単ではない。今回の計画の中で、女性が活躍しやすい環境を目指すことを一つの項目として掲げることにより、明るい将来像が示され、本県の優位性を高めることにつながるのではないかと。</p>	

委員名	骨子素案	計画全般
徳武 委員	<p>全体的に県内産業の長期的課題を的確に捉え、対応を図ろうとする案になっていると思いますが、「デジタル化」と比較して「高付加価値化」「脱炭素・環境への対応」といった点に関する課題認識や施策が見え難いと感じます。これらは「成長分野」に含まれているのかも知れませんが、県内産業にとってとりわけ重要な課題であることから、個別に記載するなどした方が良いのではないかと思います。</p> <p>・「3技能の振興・継承」については、最近では「人から人へ」に加え「人からデジタル（等のテクノロジー）」への継承に取り組む事例も少なくないようです。</p> <p>「DX」に含まれるのですが、県内では特に熟練技能とデジタルを結び付ける人材育成も必要なのではないかと考えています（職業訓練から外れるかもしれませんが）。</p>	<p>コロナ禍による接触機会の削減の継続の必要性、「在職者訓練」「女性、高齢者」（育児、介護、ひとり親等）「障害者」などの能力開発の重要性が増している中で、カリキュラムや訓練時間（期間やタイムテーブル）、オンラインの活用を含めた場所など、より一層訓練への参加のハードルを下げる配慮、工夫が必要になると思います。こうした点について従来以上に丁寧に記載していただきたいと考えます。</p>